

7 雄和地域

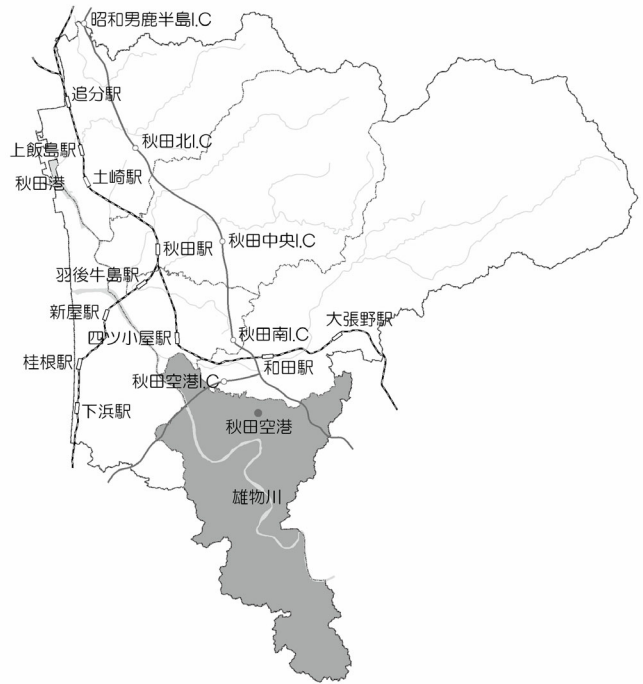
(1) 地域の概要

① 概況

雄和地域は、地域の中央を県内最大の一級河川である雄物川が流れ、周辺には高尾山などの山並みが広がり、水と緑に恵まれた地域です。

妙法地区には、雄和市民サービスセンターとともに、教育・文化・スポーツ施設が立地しています。

また、地域内には秋田空港を有するとともに、国際教養大学や県農業試験場など学術・研究施設、県立中央公園や温泉施設、高尾山レクリエーション施設などの観光・レクリエーション施設も充実しています。



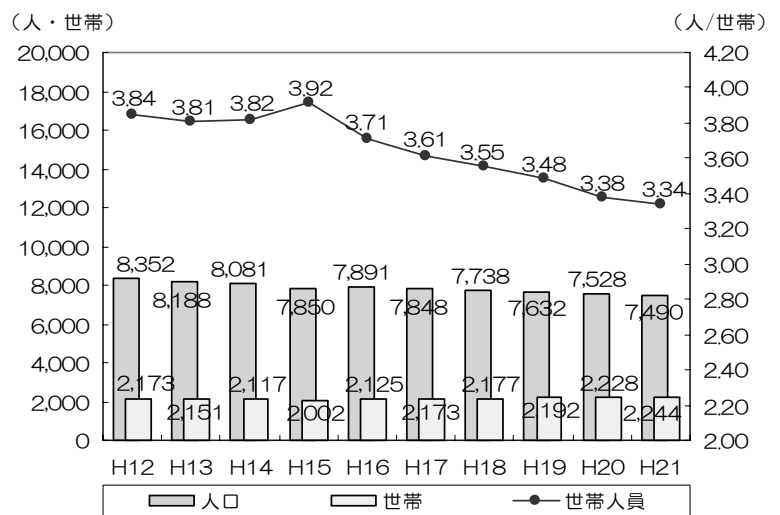
② 人口・世帯数の推移

雄和地域の平成 21 年 10 月 1 日時点の人口は、7 地域の中で最も少なく 7,490 人となっており、平成 12 年からの 10 年間で約 12.7% (862 人) 減少しています。

一方、人口減少が進む中で世帯数は、平成 21 年で 2,244 世帯と 10 年間で約 3.3% (71 世帯) 増とほぼ横ばいで推移しています。

1 世帯当たりの人員は 3.84 人/世帯から 3.34 人/世帯に減少していますが、他地域に比べると比較的高い世帯人員となっています。

地域内の年齢別人口構成比（平成 17 年国勢調査より）をみると、年少人口（15 歳未満）が 9.4%と 7 地域の中で最も低い割合を示しています。また、生産年齢人口（15～64 歳）が 59.0%、老年人口（65 歳以上）が 31.6%となっており、老年人口の割合は河辺地域に次いで高い地域となっています。



※住民基本台帳（各年 10 月 1 日時点）より。H12,17 は国勢調査結果

③ 土地利用の状況・課題

雄和地域の面積は 14,450ha で、そのうちの約 3 割（約 4,820ha）が河辺都市計画区域（非線引き都市計画区域）に指定されていますが、用途地域指定はありません。

雄物川沿いには農業地域の農用地区域（約 2,300ha）が指定されており、その周囲は森林地域の国有林（約 100ha）、地域森林計画対象民有林（約 8,940ha）、保安林（約 230ha）が指定されています。

【商業・業務地】

本地域の商業地としては、各集落に立地する小売店舗がその役割を果たしています。

また、行政機能などを有する妙法地区には、日常生活に必要な商品を購入できる商店等の立地が見られますが、商業集積としては十分とは言えず、身近な商業機能の整備が求められています。

【住宅地】

地域全体としては、妙法地区をはじめ集落ごとに低層の住宅地が分布しています。人口減少による空き家の発生や高齢化に伴う高齢者世帯の増加が課題となっており、空き家の有効活用とともに、高齢者の生活をサポートする仕組みづくりが求められています。

【農地・自然環境】

雄物川沿いの平野部には、まとまった優良農地が確保されており、良好な田園空間が形成されています。雄物川沿いの農地については、遊水池としての機能も果たしており、今後も多面的な役割を果たす貴重な空間として適切な保全・管理が望まれます。

また、雄物川の周囲には、高尾山などの豊かな森林環境が広がっています。

【その他の拠点・都市機能】

妙法地区には、雄和市民サービスセンターや雄和図書館、雄和体育館などの公共公益機能が立地しています。ただし、総合病院などの高度な医療施設や福祉施設など、その他の都市機能が不足している状況にあります。

観光拠点としては、秋田空港に近接する県立中央公園、豊かな自然環境を活かした高尾山一帯のレクリエーション施設などが整備されており、交流人口の拡大と地域の活性化に向けた活用が求められています。

また、地域の北側には、国際教養大学が立地しており、大学と地域の連携による活力創出が期待されます。

④ 交通施設の整備状況・課題

【地域間・地域内交通】

市街地環状道路に位置づけられている国道 13 号に連絡する道路として、県道秋田雄和本荘線が整備されています。また秋田空港に連絡する道路として、県道秋田御所野雄和線が整備されています。

【公共交通】

本地域には鉄道は整備されておらず、バス交通が本地域における公共交通の中心となっています。しかし、バス路線網から外れた地域での公共交通手段の欠如など、課題も有していることから、公共交通の更なる利便性向上に向けた対応が求められています。

⑤ その他の状況・課題

【景観形成】

雄物川と田園、山林とが一体的となった雄大な景観が広がっており、適正な維持管理による景観の保全が求められています。また、高尾山や白根館からの眺望景観の確保のための取組も望まれます。

良好な自然環境が保全されている証でもある白鳥やホタルなどの生き物も見られることから、引き続き貴重な生物生息環境の保全が求められています。

(2) 目指すべき地域の姿

秋田空港と自然色豊かな 田園のまち

- 秋田空港や高速道路などの広域交通環境を活かしたまちづくり
- 安心して住み続けられる 生活に必要な機能が充足したまちづくり
- 住民や大学、国内外との交流による 活力のあるまちづくり

本地域は、雄物川と河川沿いに広がる田園、山林などの豊かな自然環境が広がり、ホタルなどの生き物が飛び交う環境が残されている地域です。また、県立中央公園や高尾山などの観光・レクリエーション施設とともに、国際教養大学や県農業試験場などの学術・研究の拠点も立地する地域です。さらに、本県の空の玄関口となる秋田空港があり、日本海東北自動車道秋田空港インターチェンジに近接するなど、空と陸とを結ぶ交通の要衝でもあります。

現在は自動車交通への依存度の高い地域ですが、身近な場所への生活に必要な機能や、バス交通などの公共交通の充実を図り、安心して住み続けることのできる地域づくりを進めます。

本地域は、高齢化が進んでいるものの、地域コミュニティの活動が活発で、団結力があるなど、地域住民が支え合う意識の高い地域です。今後も、豊かな自然や恵まれた広域交通環境の活用とともに、地域コミュニティや地域内に立地する施設などとの連携により、地域間交流や都市と農村との交流など、活力を生み出すまちづくりを目指します。

(3) まちづくりの方針

① 土地利用の方針

【利便性の高い地域中心の形成】

- 行政・文化機能を有し、地域内で最も商業施設が集積している妙法地区を、雄和地域の地域中心に位置づけます。
- 地域住民の身近な生活拠点として、既存の行政・文化機能を活かしながら、日常の買い物をまかなう商業機能や飲食店などの娯楽機能の充実に向けた環境整備を促進します。
- 地域中心にふさわしい秩序ある市街地形成に向けて、用途地域の新規指定など、計画的な土地利用誘導方策の導入を検討します。
- 秋田空港や秋田空港 I.C に近接する地域特性を活かし、商業・業務機能などの進出を促す環境整備を促進します。
- 地域内人口の減少や高齢化を見据え、地域中心への都市機能の充実と連携し、既存ストックを活用しながら、地域内における定住人口の確保のための緑に囲まれたゆとりのある良好な居住環境の形成を図ります。
- 雄和市民サービスセンターを拠点に、地域における市民協働・都市内地域分権を推進するとともに、地域内の交流強化、市民や来訪者への地域情報の発信拠点としての活用等を進めます。

【計画的な土地利用の誘導】

- コンパクトな市街地形成による持続可能な都市の実現に向けて、市街化を促進する市街化区域と、市街化を抑制する市街化調整区域を区分する「線引き都市計画区域」である秋田都市計画区域との統合を目指します。
- 線引き都市計画区域への移行による、無秩序な開発行為等の防止と地域中心への都市機能の集積を図るとともに、郊外の既存集落の維持・活性化に資する都市計画制度の導入を検討します。

【自然環境の保全・管理】

- 市民や行政など多様な主体の連携・協働により、無秩序な開発の抑制とともに適正な維持管理を行いながら、山林の豊かな森林環境や雄物川などの河川環境の保全活動を促進します。
- 高尾山をはじめとする山林や雄物川沿いに広がる田園空間など、良好な自然景観の保全を図ります。
- ホタルや白鳥などが生息する雄物川などの水辺環境については、良好な環境を保全し、地域資源を活かした地域の魅力づくりに努めます。

【田園環境の保全・管理】

- 雄物川などの河川沿いに広がる田園地帯については、無秩序な開発の抑制により良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、農道・水路等の農業基盤の適切な維持・改修により農業生産環境の向上を促進し、優良農地の保全を目指します。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足などを背景として、増加傾向にある耕作放棄地については、多様な作物の栽培による新たな特産品づくりなど、農業の活性化に取り組むとともに、田園環境の維持・保全を図ります。

【郊外既存集落の維持・活性化】

- 生活道路の改修や上下水道の整備など、生活環境の維持・改善に向けた取組を推進します。
- 既存集落の維持・活性化に向けて、他都市からの住み替えやU・J・Iターンなどの新たな人口流入の促進に寄与する都市計画制度等の導入を検討します。
- 一層の増加が懸念される空き家や耕作放棄地については、都市計画制度等の導入により、農家民宿など都市・農村交流拠点としての有効活用を促進します。

② 交通体系の整備方針**【安全で快適な道路環境づくり】**

- 通学路などにおける街灯や防犯灯の設置などによる、安全な道路環境づくりを進めます。
- 山間部における冬期の安全対策の充実などによる、安全で快適な自動車移動のための道路改良を促進します。

【持続可能な公共交通の確保】

- マイタウン・バスの路線網再編やタクシーなどの利活用を含めた、民間活力の導入などによる公共交通の充実を図ります。
- パークアンドライドやライドアンドライドなど、都心部までのアクセス性向上に向けた、周辺鉄道駅における交通結節機能の充実を促進します。

③ その他の方針

【地域特性を活かした活力の創出】

- 交流人口の拡大による地域活力の創出を目指し、秋田空港からのアクセス性の維持・充実を図るとともに、空港利用者の地域内への誘導に向けた観光拠点の整備とPRの充実、秋田空港から観光拠点を有機的に結ぶ観光ルートの設定などを促進します。
- 県立中央公園については、スポーツ・レクリエーションの拠点として、その機能の充実を図り、県内外の交流人口の拡大に向けた積極的な利活用を促進します。
- 地域の豊かな自然環境や農業環境を活かしながら、空き家や耕作放棄地を活用した農家民宿や体験農園など、グリーンツーリズムの場の整備を促進します。
- 秋田空港に近接する特性を活かし、新たなイベントなど市民の国際交流の場を創出します。
- 国際教養大学と地域との交流・連携、学生と住民との交流の場の創出による地域活力づくりを促進します。

【安全安心なまちづくり】

- 河川や山林の防災対策の充実とともに、緊急時の避難場所など防災拠点となる施設の適切な配置と機能の充実を図り、安全安心なまちづくりを目指します。
- 充実した地域コミュニティを活かし、防災・防犯活動や除雪作業など、住民同士が支えあう地域コミュニティの連携強化によるまちづくり活動を促進します。
- 高齢者が安心して住み続けることができるように、高齢者の買物や通院を助ける地域内の移送ボランティア組織など、地域コミュニティ内での自助組織の設立や、移動販売などの買物支援サービスの充実を促進します。
- 新たなイベントなどの実施による、住民間の交流機会の充実を図り、地域コミュニティの一層の強化を促進します。

雄和地域構想図

